

山形県公立学校における働き方改革に関するオンライン会議 次第

日時 令和2年12月18日（金）10:30～12:00

場所 県庁eミーティングルーム 他

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 県教育委員会の取組みについて

（1）時間外在校等調査結果について

（2）令和2年度の重点取組みについて

4 協 議

座長：出口副学長

5 その他

6 閉 会

山形県公立学校における働き方改革に関するオンライン会議 参加者名簿

日時： 令和2年12月18日(金)10:30～

場所： 県庁eミーティングルーム他

《参加者》

【敬称略】

No.	所属	役職	氏名	備考
1	山形大学	副学長	出口 毅	座長
2	文部科学省初等中等教育局財務課	校務改善専門官	島谷 千春	
3	県市町村教育委員会協議会	会長	荒澤 賢雄	山形市教育委員会教育長
4	県PTA連合会	会長	佐藤 博之	山形市立第六小学校PTA
5	県特別支援学校PTA連合会	会長	戸津 雅彦	県立楯岡特別支援学校PTA会長
6	県高等学校PTA連合会	会長	永森 忠大	県立山形西高等学校PTA会長
7	県連合小学校長会	会長	日高 伸哉	山形市立第四小学校長
8	県中学校長会	会長	高橋 政吉	山形市立第二中学校長
9	県特別支援学校長会	会長	高橋 幹則	県立ゆきわり養護学校長
10	県高等学校長会	会長	津田 浩	県立山形西高等学校長
11	若手教員代表(小学校)	教諭	佐藤 支保	山形市立第四小学校
12	若手教員代表(中学校)	教諭	高橋 紅音	山形市立第二中学校
13	地域学校協働活動代表	コーディネーター	蛸井 由美子	朝日地域学校協働本部

《事務局》

14	県教育庁	教育次長	江川 久美子	
15	県教育庁	教育次長	片桐 寛英	
16	県教育庁教職員課	課長	那須 隆秀	
17	県教育庁教職員課	管理主幹	大沼 晋	
18	県教育庁義務教育課	課長	小関 広明	
19	県教育庁特別支援教育課	課長	三浦 祐一	
20	県教育庁高校教育課	課長	曾根 伸之	
21	県教育庁生涯教育・学習振興課	課長	熊谷 岳郎	
22	県教育庁スポーツ保健課	課長	佐藤 裕恒	

令和2年度時間外在校等時間調査の結果について【令和2年度上期分】

1 調査方法

- (1) 期 間 令和2年4月1日～9月30日
- (2) 対象者 山形県公立小学校及び中学校に常時勤務する教育職員
山形県立特別支援学校及び高等学校に常時勤務する教育職員
- (3) 調査数 小学校：3,874名 中学校：2,242名
特別支援学校：837名 高等学校：1,891名

2 調査結果

(1) 時間外在校等時間（令和元年10月調査との比較）

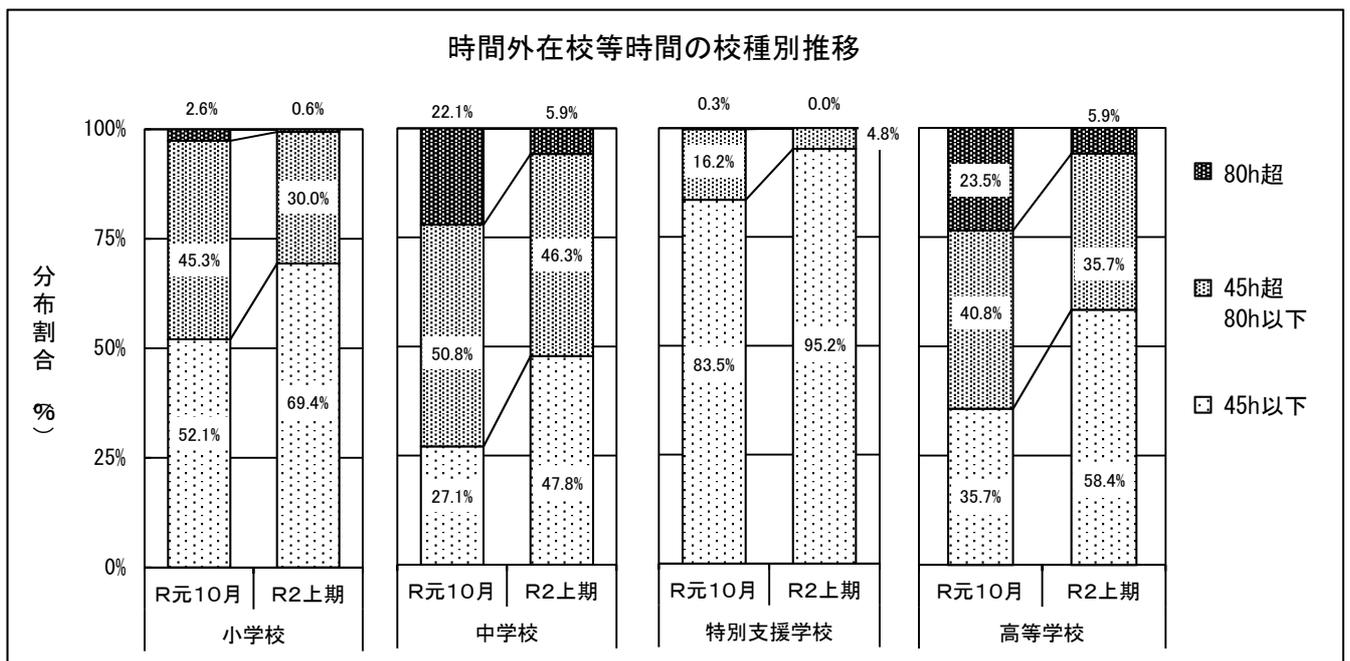
令和2年度目標値

- ①80h超人数：前年度比40%減 … 小52人、中267人、特1人、高265人
- ②時間外在校等時間：同20%減 … 小35:56、中49:43、特22:46、高47:06

	小学校		中学校		特別支援学校		高等学校	
	R元 10月※1	R2 上期※2	R元 10月※1	R2 上期※2	R元 10月※1	R2 上期※2	R元 10月※1	R2 上期※2
① 80h超人数 (割合)	87人 (2.6%)	24人 (0.6%)	445人 (22.0%)	132人 (5.9%)	2人 (0.3%)	0人 (0.0%)	441人 (23.5%)	111人 (5.9%)
45h超80h以下人数 (割合)	1,502人 (45.3%)	1,162人 (30.0%)	1,025人 (50.8%)	1,038人 (46.3%)	127人 (16.2%)	40人 (4.8%)	765人 (40.8%)	676人 (35.7%)
45h以下人数 (割合)	1,725人 (52.1%)	2,688人 (69.4%)	547人 (27.1%)	1,072人 (47.8%)	655人 (83.5%)	797人 (95.2%)	671人 (35.7%)	1,104人 (58.4%)
② 時間外在校等時間	44時間 55分	36時間 6分	62時間 9分	47時間 22分	28時間 28分	23時間 36分	58時間 52分	40時間 52分

※1：令和元年10月1箇月分の時間外在校等時間

※2：学校再開後の直近4箇月（6月～9月）の値を用いて集計



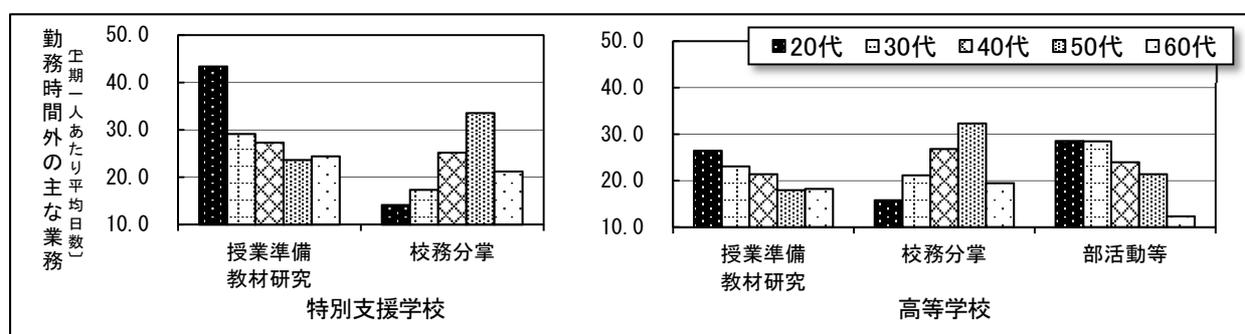
(2) 勤務時間外の主な業務日数（上期一人あたり平均日数）

※ 表中の日数は、各校種における延べ日数を調査人数で除した日数である

※ 表中の丸数字は、各校種において業務日数の多い上位3項目を示している

No	業務内容	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校
1	授業準備・教材研究	① 27.3日	② 17.6日	① 28.7日	③ 19.7日
2	学習指導（講習等）	0.7日	1.0日	1.1日	2.8日
3	児童生徒指導	1.2日	1.9日	0.9日	3.0日
4	校務分掌	② 21.2日	① 23.4日	② 24.3日	① 26.4日
5	部活動	0.1日	③ 16.5日	0.1日	② 22.2日
6	保護者・地域対応	0.9日	1.4日	0.2日	1.2日
7	会議・研修等	0.7日	1.0日	0.5日	0.9日
8	その他	③ 6.4日	8.5日	③ 12.9日	8.1日

【勤務時間外の主な業務日数〈年代による差が顕著な業務〉（特別支援学校・高等学校）】



3 令和2年度の重点取組み〈5項目〉～ 上期の評価と課題 ～

(1) 勤務時間に関する意識啓発と管理の徹底

長時間勤務者が減少していることから、勤務時間に関する意識は変わりつつあるといえる。「客観的な」勤務時間管理は少しずつ広まりつつあるが、県立高校では令和3年度の整備予定であること、小中学校では約40%にとどまっていることなど、継続課題である。

(2) 教員が担うべき業務の明確化と適正化

学校のマーチングを地域に移行したり、教員が担っていた会計事務を事務職員が一括して行う校内体制にしたりするなどの取組みの報告があった。今後も、「働き方改革の取組み手引」を活用した事例の周知に努めるなど、各校の実態に応じた教員の業務の明確化と適正化が図られるようにしていく必要がある。

(3) 適切な部活動運営の推進

新型コロナウイルス対策で部活動が一部制限されたこともあり、全体として部活動指導の時間は減少している。しかし、一部の学校（教員）においては、土日の両日を部活動に従事して月100hを超える時間外在校等時間となるなど、部活動ガイドラインとの整合性が必要な状況がある。

(4) 教員の事務負担の軽減

国事業を活用して、スクールサポートスタッフと学習指導員を年度途中から配置するなど人的支援の拡充に努めたが、現段階で配置できていない学校もあり、人的支援は十分な状況とはいえない。また、中堅教員が多くを担う「校務分掌」、若手教員の課題である「授業準備・教材研究」など、事務負担軽減へのさらなる支援が必要である。

(5) 保護者・地域への周知と地域人材の活用

文科省による「学校・子供応援サポーター人材バンク」の活用など、地域人材の活用は進められてきている。教員の働き方について、保護者・地域等への理解をさらに深めるため、今後はオンライン等の形態を工夫しながら、啓発活動を継続していく。

「地域とともにある学校」 & 「学校とともにある地域」 「朝日てづねーたークラブ」の活動について

朝日地域学校協働本部「朝日てづねーたークラブ」
地域学校協働活動推進員 蛸井 由美子

1. はじめに 朝日地域の現状と協働本部の立ち上げ

鶴岡市朝日地域（旧東田川郡朝日村）は、豊かな自然と月山信仰を中心とした特色ある伝統文化に恵まれ、人情味ある地域住民のつながり・異世代交流・強い郷土愛など、古き良き地域性が今なお残っている一方で、人口減少・過疎化・少子高齢化が進み、地域の活力が失われつつある現状もある。

地域内にあった3つの小学校は平成26年、28年に段階的に統合して鶴岡市立あさひ小学校となり、鶴岡市立朝日中学校と合わせて朝日地域内に小中学校は1校ずつとなった。僻地小規模校が閉校することにより、地域と密着し地域に支えられてきた学校と地域との絆が薄れていくことが危惧され、平成29年4月、朝日地域学校協働本部 通称「朝日てづねーたークラブ」を立ち上げることとなった。「てづねーたー」とは「手伝いする人」という意味で使っている。

〔1〕学校が必要とする活動に地域住民が協力・支援することにより、**学校の教育活動の充実**を図る、
〔2〕学校を核として地域住民が参画する事業を展開することにより、**地域コミュニティの活性化**を図る、の2点を目的とし、活動を推進している。

2. 具体的な取り組み 昨年度・今年度の活動より

学校支援の活動

<あさひ小学校>

- 図書貸し出し支援・・・始業前の時間帯の図書貸し出しの世話に地域の方々が支援
- 家庭科授業への支援・・・ミシンを使用した家庭科の授業に地域の方々が支援
- 学校田の米づくり支援・・・田植え、稲刈りおよび日頃の水管理、除草等への支援
- 登山・トレッキング支援・・・経験豊かな地域の方々から、登山やトレッキングへの支援

<朝日中学校>

- 体育（剣道）の授業支援
・・・地域の剣友会の方から剣道の授業への支援
- 書写（書初め）の授業支援
・・・地域の書道会の方から書初めの授業への支援
- 終業前学習への支援
・・・終業前の時間帯を活用した生徒の自主学習
苦手克服学習へ教職経験者が支援



地域の元気に学校の協力を求めた活動

<あさひ小学校>

- グラウンドの草むしり・・・地域のお年寄りをお願いし、春の運動会前と秋の持久走大会前に、グラウンドの草むしりを実施。全くのボランティアだが、年々参加者が増えてきている。
- 中庭の花壇整備・・・中庭花壇の手入れを地域のお年寄りをお願いし、花植え、草むしりなどを実施。てづねーたークラブ『ガーデニング部』と位置付けている。
- 2年生校外学習の実施・・・田麦俣地区内でオリエンテーリングを実施し、地域のお年寄りからチェックポイントでの問題出題などに協力いただいている。

地域や学校の要望に応えた活動

- **長期休業中の学習会**・・学校や朝日東部コミセン・朝日南部コミセンの要望を受け、夏季・冬季休業中に両コミセンにおいて小中学生対象の学習会を実施。コミセンが事業主体となりながら、地域の教職経験者への講師依頼やボランティア保険・謝金の一部負担などを当事業で担い、地域と学校との連携で実現した。



3. 活動等の成果 恩恵は児童生徒と地域住民に

- **学校の教育活動の充実**

始業前、終業前の活動・学習支援など、少ない教職員でカバーしきれない部分に地域の方々から支援いただくことで、学校からは「とても助かっている、子ども達が安心して生活している」との声が聞かれる。武道・書道・登山など、専門的な知識技能を持った方々から指導いただくことで専門性が増し、学習や活動が充実しているという声もある。何より地域の方々から温かい目で見守っていただくことで、児童生徒がのびのびと素直に学習や活動に取り組んでいる姿が見られることが大きな成果である。

- **地域の活性化**

グラウンドの草むしりや中庭の花植えに来て下さる方々は、在校児童のいないお年寄りも多く児童と一緒に活動したり学校の役に立ったりすることに喜びを感じて生き生きと活動している方が多い。また、児童生徒が地域に出向いて地域の方々と一緒に活動することで児童生徒の明るさや素直さが地域に元気を与えている。小学校が廃校となった地域では、学習会やコミセンを中心とした活動に子ども達が集まることで従前の活気を取り戻す場面もあり、地域や地域住民の活性化に一役買っていると思われる。

4. 今後の課題 輪を広げ、学校も地域も、WinWinの活動を

- **学校のニーズに対応できる人材集めとてづね一たークラブの活用**

学校のニーズを聞き取り柔軟に対応して、教育活動に有意義な人材派遣が速やかにできるようにネットワークを築いていくことが必要である。また従来からの学校支援もてづね一たークラブの活動に位置付けることにより、地域と学校の連携・協働を一体化して進めることが大切であると考えます。

- **参加してよかった、楽しかったてづね一たークラブに！ 人材登録の工夫**

これまで活動に参加して下さった方を次々と登録して現在登録人数は約50名にまで増えた。参加してよかった、楽しかったと思える活動を仕組むことで、口伝えで輪が広がっていくことを期待し、益々人材の輪を広げていきたい。

- **とにかく周知！！**

現在、事業案内は小中学校を通して在校児童生徒の各家庭に案内するとともに鶴岡市朝日庁舎の協力を得て音声告知放送（防災無線）を活用して行っている。また、朝日庁舎総務企画課発行の生涯学習情報誌「まなぼうや」に本事業の活動内容について記事を掲載して



いただき周知に努めている。これからもいろいろな場面・機会をとらえて周知し、より多くの地域住民が参加できる「てづね一たークラブ」を目指していきたい。